

# 北海道浮魚ニュース

平成10年（1998）年度9号（通巻 No. 30）

1998年7月29日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-23-2126	Fax : 0162-23-2134
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

## 北西太平洋サンマ北上期調査結果

北辰丸（釧路水産試験場調査船）によって行われたサンマ北上期調査の結果をお知らせします。

調査期間：1998年7月10日～24日

調査海域と調査点（図1）：北西太平洋（北緯40度30分～46度30分、東経149度30分～162度30分）の17調査点（漁獲調査は9点）

調査方法：5種類の目合（22, 25, 29, 37, 48 $\phi$ ）の流し網を用いた漁獲試験

### ①表面水温（表1）

9調査点の表面水温は東経155度以東では8.5～15.1℃で前年（8.1～10.8℃）より高めでしたが、東経155度以西では14.4～18.2℃で前年（14.4～22.0℃）よりやや低くなっています（表1）。

### ②漁獲尾数（図2, 表1）

流し網を用いた漁獲試験の結果は表1の通り、サンマ漁獲尾数の合計は1,578尾でした。調査1回流し網1反あたり漁獲尾数は16.9尾で前年（45.6尾）を大きく下回りましたが、1995年や不漁だった1996年と比べると上回っています（図2）。調査点別に見ると、サンマはST. 7で280尾、ST. 9で320尾、ST. 13で580尾とやや多く漁獲されましたが、道東近海寄りのST. 15とST. 17では漁獲されませんでした。

※ST. 5は流し網の網なりが悪かったため、調査1回流し網1反あたり漁獲尾数の計算から除外

### ③体長組成（図3）

調査全体では29cmモードの大型魚主体でした。調査点別に見ると、ST. 1とST. 5、ST. 7、ST. 9が29～30cmモードの大型魚主体、ST. 13が16cmモードのジャミと26cmモードの中型魚でした。

以上の結果から、東経155度以東の海域では29～30cmの大型魚主体で、東経155度以西の海域では中型魚とジャミ主体と言えます。特に東経155度以西海域のジャミは例年になく多く分布していると考えられます。

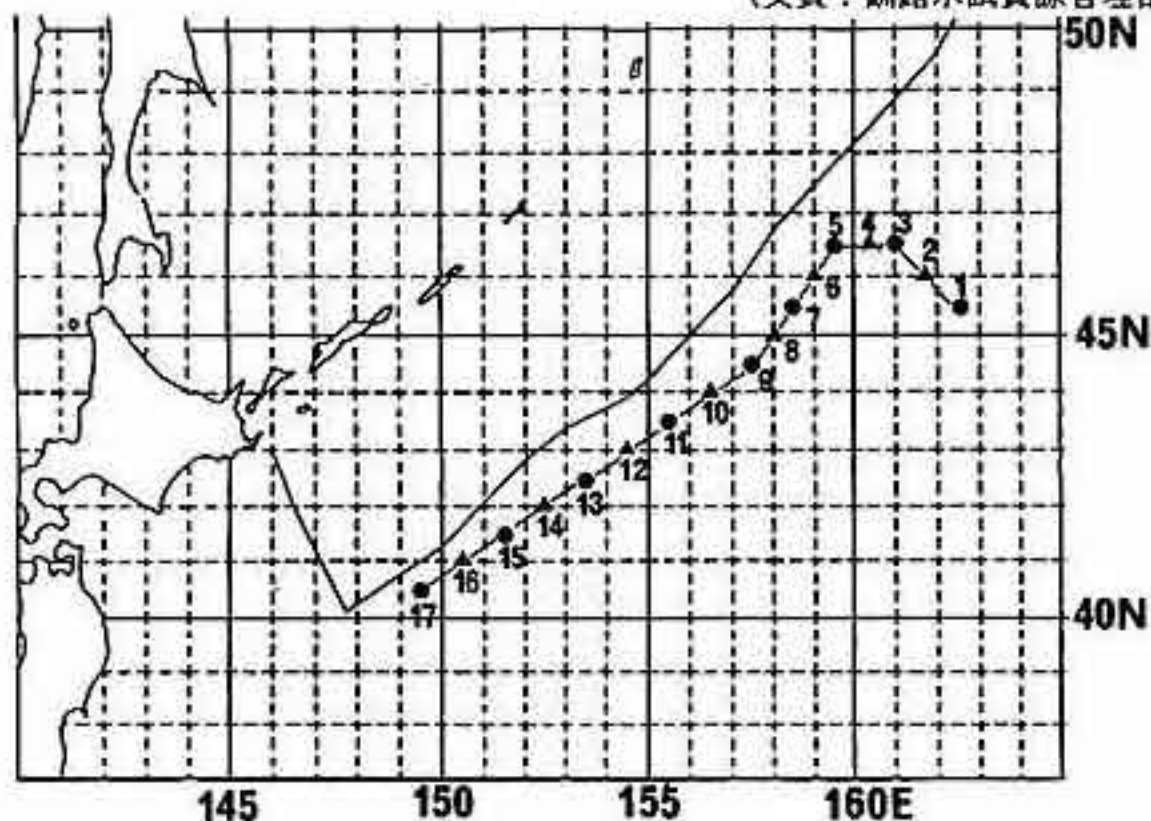
大型魚の分布は東経155度以西海域では極めて少なく、東経155度以東海域でも不

漁であった1996年より多いものの、前年より少ないと考えられます。

現在、道東沖のさんま漁況は不漁ですが、6月～7月上旬の調査結果から三陸沖合の北上群が少ないことと、この調査の道東近海寄りのST. 15とST. 17の漁獲が皆無であること、ST. 13も分布は多いものの、ジャミ主体であることから、サンマの不漁は東経155度以東の沖合の北上群が南下する8月中・下旬まで続くと考えられます。

◎来る8月11～12日に東北区水産研究所（塩釜市）で平成10年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報会議が開催され、今回の調査結果を含めた各機関の資料を基に、漁海況予報が発表される予定です。

(文責：釧路水試資源管理部)



ST. 11は荒天のため、海洋観測のみ実施

図1 調査点図 (●：漁獲調査及び海洋観測点、▲：海洋観測点)

表1 平成10年度北上期調査のサンマの漁獲尾数

※目合22.25切各1反(30間切り換算)、29.37.48切各4反(60間切り換算)

ST	1	3	5	7	9	11	13	15	17	
揚網日	7.14	7.15	7.16	7.17	7.18	欠	7.21	7.22	7.23	
位置	北緯	45-30	46-30	46-30	45-30	44-30	43-30	42-30	41-30	40-30
	東経	162-30	161-00	159-30	158-30	157-30	155-30	153-30	151-30	149-30
水温 (℃)	0m	8.5	8.6	8.6	9.4	12.3	15.1	14.4	15.9	18.2
	50m	4.5	3.6	3.2	3.8	3.4	9.8	6.8	3.3	4.8
	100m	4.2	1.8	2.2	2.0	2.4	8.3	5.8	1.7	5.0
サンマ漁獲尾数	391	0	7	280	320	-	580	0	0	合計 1,578

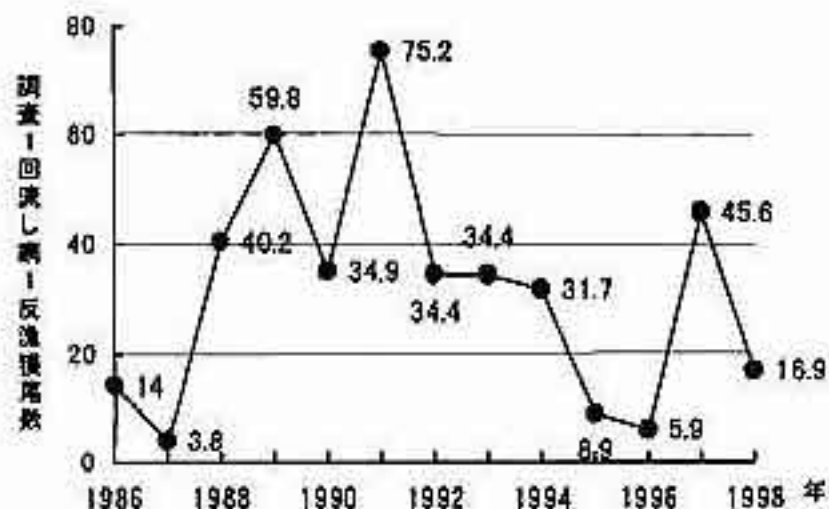
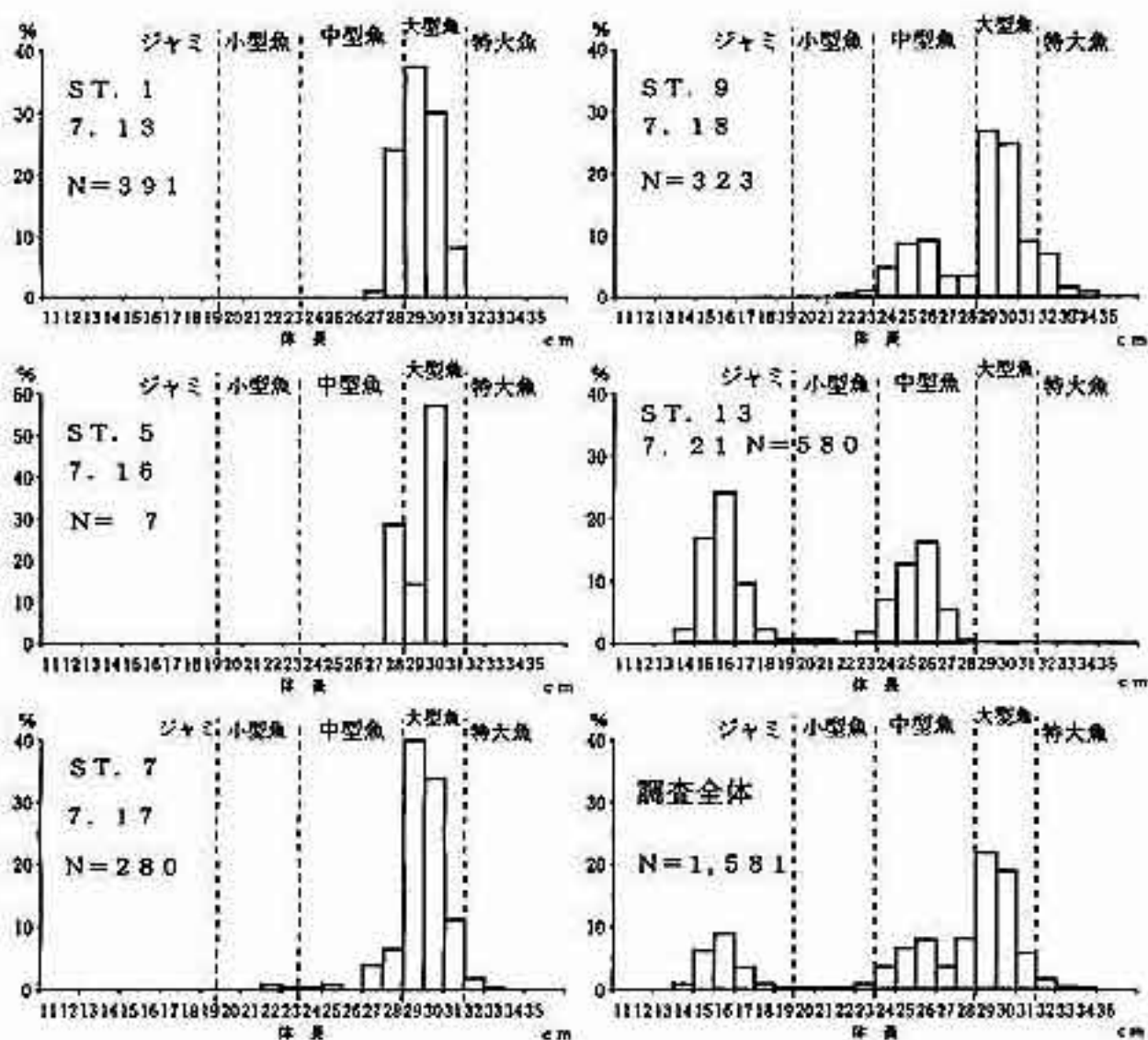


図2 1986年(昭和61年)~1998年(平成10年)の調査1回流し網1反あたり漁獲尾数の推移



※体長組成：流し網の目合別に上限100尾測定、それを目合別の漁獲尾数で重み付けして合計し、全体の組成を算出

図3 流し網調査の体長組成 (Nは漁獲尾数)